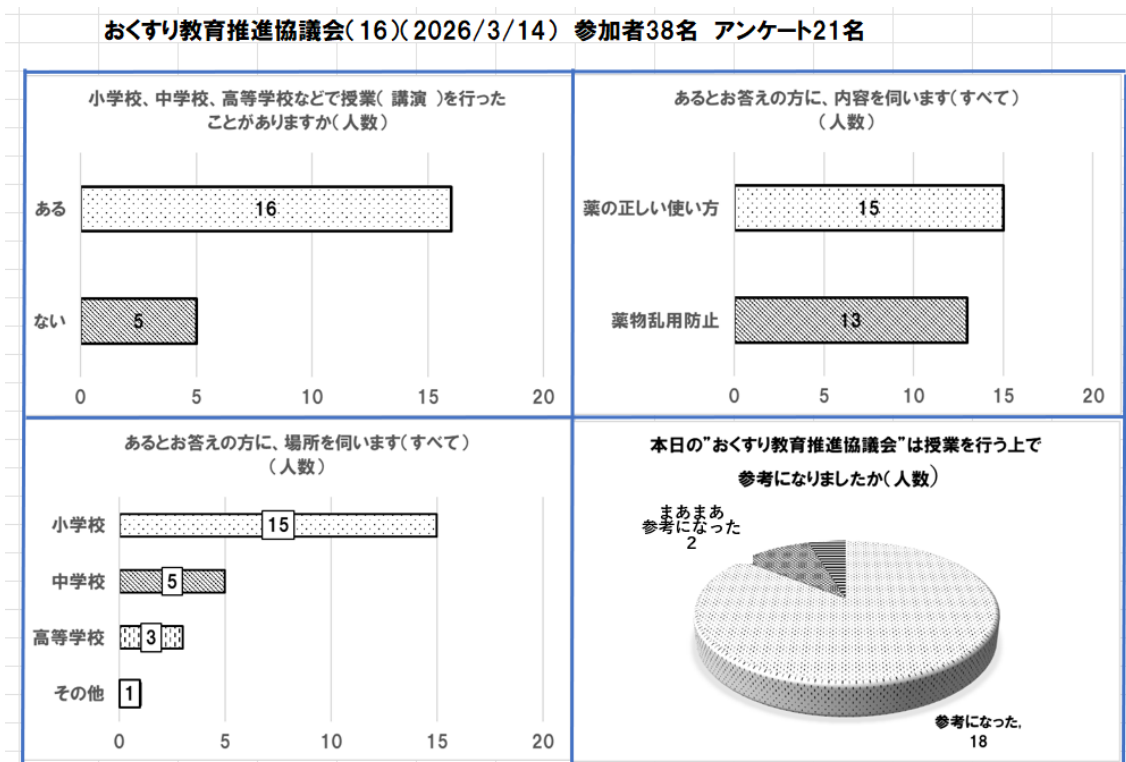


アンケート結果



アンケート (記述)

—希望—

- ・リモート開催が良い。
- ・リモート開催だと参加しやすい。
- ・リモートに慣れていないため、対面の開催ですと有難い。
- ・今後も両方の特性を活かした zoom、対面の交互開催が良い。(zoom 開催は遠方の方も参加でき、活動の様子を聴ける、意見交換を行うには確実に対面式の開催が望ましい)
- ・小学校低学年、及び幼稚園などで、お薬教育をされている先生のお話を聞きたい。
- ・実際に行っている方の経験談を聞きたい。(特に新しい取り組みの成功例)
- ・アンケートの結果や年代による違いなどが知りたい。
- ・いろいろな取り組みのお話、現在進行形で聞きたい。
- ・視覚的にわかりやすく伝える方法。やさしい言葉でわかりやすく伝える方法。
- ・学校薬剤師 1 年目のため、他の薬剤師の方々が実際の指導内容・取り組みを伺う機会が欲

しい。

- ・オーバードーズに関する最新データを共有して薬剤師としてできることを考えたい。
- ・ゲートキーパーとしての役割を意識した取り組みの実例を知りたい。
- ・ゾンビタバコや大学生の大麻使用の、具体的なきっかけを聞きたい。
- ・防災で、学校と連携している方のお話を聞きたい。備品の置き場所がなく、分散している
ので、どのように管理しているか聞きたい。

- ・私は小学校の学校薬剤師です。先生方と協働し、長く「薬育」に取り組んでまいりました。
私は、東京大学の TICPOC に参加し、これからの「薬育」のあり方について学びを
深めています。ここでの学びは、これまでの活動の前提を根本から見直す大きなきっか
けとなりました。

従来の「ダメ。ゼッタイ。」という一律の禁止教育だけでは、オーバードーズ (OD)
などの苦痛の中にいる子どもたちを救えないばかりか、むしろ「正論の暴力性」によっ
て彼らを追い詰めてしまう懸念があると感じたからです。

「どうしてそんなことするの？」ではなく「この子に何があったのか」を問い直す
TIC の視点。これを土台とした「自他への思いやりの教育」の力によって、従来の一次
予防教育から自殺予防教育 (ゲートキーパー育成) へと合流させていく。これが私の考
える「これからの薬育」です。いかに現場の活動として形にするかが、現在の私の大き
なテーマになっております。

活動を続ける中で、この「TIC の視点」をいかに関係者や教育現場へ普及させていく
かが大きな課題であると感じております。教育現場への効果的なアプローチや、他地
区での事例など、皆様の知恵を拝借できれば幸いです。

—意見・感想—

- ・災害医療の講演は実際に直面している問題の指摘など詳細に聴けてとても勉強になりま
した。いざという時の具体的な内容の中でも、特に印象に残ったのは「心の薬剤途絶」
という言葉です。
- ・細谷先生のご講義で、改めて学校薬剤師が、避難所となる学校での役割がよくわかりまし
た。
- ・担当校 (高校) では、入学時に生徒全員に、個人の災害ボックスを渡されます。(学校内
で保管) 今年度、災害ボックスの中に何が入っているか生徒自身が、確認して実際に使
用してみた感想をまとめられていました。(学校保健委員会資料) 見させていただいて、
学校薬剤師が避難所での衛生管理も担うこと。また状況に応じてしなければならないこ

となどを、少し学校と共有することができました。今まで、担当校と、防災についてゆっくり話したことはありませんでした。まだまだ、試行錯誤の段階ですが、これからも学校の先生方と情報共有しながら、すすめていけたらと思います。

- ・今回の冒頭の講演は学校が防災拠点であるということを再確認させてくれて大変刺激になりました。
- ・災害医療のお話は薬剤師として何をするかということを考えさせられました。
- ・学校でできることに加えて、いざとなったらどうするか、近い将来のことかもしれないと思うと、暗い気持ちに…でも考えておかないと何もできない。
- ・細谷先生に全体で質問出来なかったのですが、災害が発生したときに、急遽派遣する場合、本来の仕事に穴を開けることになりませんが、有給を使って休むのか、災害派遣する際には、ボランティアと行っているのか、災害が起きたときに賃金の事は後回しだと思いますが、賃金に関する就業規則がどうなっているのか知りたいです。

上記の件、経営者の立場も持っているので参考にさせていただきたいです。

災害時処方の対応に関しても詳しく理解できていません。薬局としての理想的な行動を教えていただきたいです。何を優先すべきか迷います。家族、従業員、定期的にいらしている患者さん等。

- ・設問を設定していただき、考えながら進められたのでとてもわかり易かったです。
- ・講座の内容構成について、細谷先生の講義が大変参考になった。
- ・概念は理解でき、大変参考になりました。

ただし、実際に被災した場合、連絡系統・手順が示されておらず、講義頂いた内容を実現するには理想と現実の乖離を感じました。

例えば、市役所・各学校の連携、学校薬剤師が担当する学校に赴いた時に誰に最初に指示を仰ぐかなど、具体的手順を立てる必要性を感じております。これら実現のため、今後も連携を宜しく願います。

- ・小平市学校薬剤師会として、今後防災対策を考えていくにあたり、たいへん勉強になりました。平時の段階から、まず学校が避難所になることを意識することから始まることがわかりました。細谷先生のまとめや加藤先生からの叱咤激励にあったように、「学業目線での防災、減災を考える」ことを、皆で取り組んでいきたいと思います。
- ・薬に対する保護者の考え方や習慣が生徒の価値観に影響するため、保護者への関わりが必要だと考える。
- ・AI 音声の使用は試してみたいと思いました。実際、音声が変わることで一回集中し直すことができるので、講義などで使用してみたいと思います。
- ・加藤先生をはじめ、子どもたちへの薬育に日々情熱を注がれている皆様方と切磋琢磨し、より良い”薬育”活動に貢献していければと願っております。
- ・明日からのやる気に繋がる学びをありがとうございました。
- ・のんびりした自分に喝をいれました。ありがとうございました。

- ・本日は、学校薬剤師と災害についての卒業研究を実施させてもらい、御縁で参加させていただきました。学校薬剤師だけでは避難所での活動にも限界があると思うので、DHEATなど保健所や学校、自治体とも良い連携を取れていけばより良く活動ができるようになるのかと思いました。まだ、学生ですが社会に出たら学校や地域との関わりを大切にしていければと思いました。
- ・毎回 zoom の際に気になることですが…始まる前に諸注意の文書での告知、さらには福田先生からアナウンスもあるにもかかわらず、ミュートにしなくて雑音が入る方、名前表示が通称だけで所属の分からない方が存在するのでしょうか。中間のあたりにでも再度アナウンスを入れてみるのはいかがでしょうか。